

出会い

No. **89** 2024. 3.14

キリスト教委員会



上:「愛神・愛人・愛土」A1号館内(右:獣医保健看護学類 動物生命科学ユニット 宮庄 拓)

ご卒業、おめでとうございます。酪農学園大学の建学の精神の一つである『三愛主義』をいつまでも心にとどめて下さい。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

(エレミヤ書29章11節)



然りは然り、否は否 (ヤコブ書5章7-12節)

—— 大地で働く人の誠実さ ——

宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

万事が益となるように

酪農学園宗教主事 朴 美愛

「証」

循環農学類3年 KGK代表 生出 健太

有機的につながろう

循環農学類 作物栄養学研究室 小八重善裕

然りは然り、否は否（ヤコブ書5章7-12節）

—— 大地で働く人の誠実さ ——



宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

¹²さて、何よりもまず、わたしの兄弟たちよ、誓ってはならない。天にかけても、地にかけても、その他のどのような誓いであっても。むしろ、あなたたちの然りは然りとし、否は否としなさい。あなたたちが裁きに陥らないためである。

（ヤコブの手紙5章12節 [私訳]）

然りと否——ヤコブ書5章7-12節

ヤコブ書5章7-12節は、忍耐の大切さを伝える7-11節とイエスの言葉として知られる「然りと否」から成る伝承を記す12節に区分されます。

7-11節は直接的には古代の終末論を前提とする世の終わりに関する宗教的な構えに触れているのですが、古代地中海世界で農業労働に従事する農夫の比喻を用いて、諦めずに最後まで忍耐することに希望を見出しています。

12節はイエスに遡源する「然りは然り、否は否」という有名な言葉伝承が残されているのですが、一切の誓いを止揚するラディカルな内容が記されています。

農夫の忍耐——ヤコブ書5章7-11節

ヤコブ書5章7-11節は、現在の試練は終末までのものであり、間近に迫る終末に備えるよう勧告しています。むしろ、現代世界を生きるわたしたちからすると、終末論は古色蒼然とした古代世界の宗教観・世界観にしか映らないかもしれません。しかし、新型コロナウイルスのパンデミック、ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ガザ（パレスティナ）戦争といった世界的な危機のみならず、政治不信や社会的・経済的な閉塞感に覆われている日本では、能登半島地震の影響も相俟って、社会全体が言いようのない不安に包まれています。これらの危機的状況を経験するわたしたちには、ヤコブ書が著された紀元1世紀後

半の古代地中海世界が希望よりも絶望が支配する時代であったことが実感として迫ってきます。その意味では、ヤコブ書の終末論もまた古代世界の戯言として一笑に付してしまえるものではないと言えるのです。

しかし、そのような危機的状況であればこそ、ヤコブ書は困難の先にある希望に目を向けるよう促し、そこで比喻として引き合いに出されているのが——旧約聖書の預言者や義人ヨブと並んで——大地の実りを待ち望む農夫の姿です。ヤコブ書は農夫が自分の務めを果たし、その後の一切を「神＝自然」に委ねる在り方に、忍耐と希望を持ち続ける人間の姿を見出しているのです。

このような農夫の姿勢は現代の科学や技術の発展に背を向けるものではなく、科学や技術を含む人間の側の努力を最大限に実践しつつ、大地からの収穫を「天の恵み」や「大地からの贈り物」と理解する謙虚な人間の姿と通底します。ここには人間よりも大きな存在である自然との共生を求める生き方があり、それこそが本学の創設者・黒澤西蔵初代学園長が示した「循環農法」の礎にある「神＝自然に委ねる」人間の姿であり、「土を愛す＝健土健民」の生き方でもあるのではないのでしょうか。

誓いの止揚——ヤコブ書5章12節

ヤコブ書5章12節は誓いそのものを止揚します。ユダヤ教では軽々しく誓いを立てることが禁じられており（レビ記5章20-26節）、神の名を用いた誓いが特に戒められてはいる

のですが（シラ書23章9-11節）、一切の誓いが禁じられることはありません。なぜなら、誓いは人と人との関係を円滑にしますし、宗教もまた神と人との間の誓いという面を持っているからです。

では、なぜヤコブ書は一切の誓いを禁じるというラディカルな態度を示しているのでしょうか。その背後には、これがイエスに遡る伝承だということが大きく関わっています。同様のイエスの言葉伝承がマタイ福音書5章33-37節にも残されているのですが、マタイ福音書の伝承よりも、ヤコブ書の伝承の方がイエスの本来の言葉を正確に伝えていると見なされます。

イエスの元来の言葉は、ヤコブ書が記すように、シンプルに「誓ってはならない。天にかけても、地にかけても、その他のどのような誓いであっても」というものです。つまり、イエスは誓いという行為そのものを止揚しているのです。それに続けて、ヤコブ書が伝えるように、イエスは「むしろ、あなたたちの然りは然りとし、否は否としなさい」と勧告しています。これは自分が「然り」（正しい）と思うことはその通りに実行し、自分が「否」（間違っている）と思うことは実行しないようにとの促しです。したがって、「然りは然り」と「否は否」というイエスの言葉は、言行一致を求めるヤコブ書が掲げる「責任」ある生き方を裏づける伝承であるがゆえに、ヤコブ書はイエスのこの言葉をそのままの形で伝えているのだと考えられるのです。

然りは然り、否は否 ——大地で働く人の誠実さ

最近の日本社会では、忖度や同調圧力が問題として指摘されることが増えてきましたが、これは以前からある上意下達や長い物には巻かれるといった社会の在り方と重なるものでもありますので、そう簡単にはなくなるものではありません。確かに、忖度文化や同調圧力社会に身を任せて、「然り」を「否」に、「否」を「然り」にする方が楽かもしれませんし、「然りは然り、否は否」を貫くには、フリードリヒ・ニーチェの言う「超人」（Übermensch）にでもならなければと感じるかもしれません。

しかし、自分を追い詰める必要はありません。なぜなら、イエスの「誓ってはならない」との勧告は、「責任＝応答可能性（responsabilité）」（エマニュエル・レヴィナス、ジャック・デリダ）を放棄した言動に対する批判だからです。日本でも、「天地神明に誓って」などと神を引き合いに出す言葉に何らの重みも感じられないように、イエスは神を持ち出す人間の誓いが「無責任＝非応答可能性（irresponsabilité / non-responsabilité）」（デリダ）な言動でしかないことを喝破しているのです。

そして、わたしたちが「然りは然り、否は否」を貫くうえでモデルになるのは「農夫」の姿です。「農夫」と訳されているギリシャ語の γεωργός（ゲオールゴス）は、「地」を意味する γῆ（ゲー）と「働き」を意味する ἔργον（エルゴン）から成る合成語であり、「大地で働く人」を意味します。まさに農夫は地に足をつけ、自分のなすべき働きに尽力し、その後で全てのことを神や自然に委ねる存在として示されているのです。

このような農夫の姿には、誰かに責任を押しつける無責任さなどは微塵もなく、ここには神や自然という自分よりも大きな存在を前に遜る人間の姿があります。このように自然と向き合う農夫の姿こそが、忖度や同調圧力に迎合することなく、忍耐と希望をもって、自然な状態で「然りは然り、否は否」を貫く誠実さにつながるのではないのでしょうか。

卒業生のみなさんが、それぞれが赴く現場で、本学で培った「大地で働く人」の誠実さを持ち続け、「然りは然り、否は否」を自然体で貫くことができるよう願っています。



万事が益となるように



未曾有の時代の経験

ご卒業まことに
おめでとうございます。

皆さんは大学生活を無事に終え、卒業のときを迎えて、社会に出るということが実感できるのではないのでしょうか。皆さんが酪農学園大学・大学院に入学したときには、コロナ感染症が発生し、パンデミックになり、日本の中でも感染者が急激に増加して、あらゆることが中止になっていく未曾有の時代の始まりだったと言えます。

それゆえに、入学式を始め、あらゆることが何から何まで中止になってしまい、皆さんはとても苦しいときを過ごさざるを得なかったのではないのでしょうか。そして、皆さんがコロナ感染症の拡散で払わなければならなかった代価はあらゆる面で大きかったのだと思います。

あらゆる苦難を乗り越え

特に、私は皆さんがせっかくキリスト教主義大学である酪農学園大学に入学したのに、素敵な黒澤記念講堂での礼拝の経験が出来なかったことが何より残念だったと感じています。黒澤記念講堂は多くの卒業生が大学を訪問し

酪農学園宗教主事 朴 美愛

たときに一番寄りたい場所でもありません。そのことに気づいたからでしょうか、4年生になってから大学礼拝に出席する学生もいました。皆さんも、卒業後に大学に来られたときには、黒澤記念講堂に立ち寄ってみてください。

しかし、今は気づいていないかも知れませんが、あらゆる苦難を乗り越えて来た皆さんだからこそ得られた特別なことが多くあると思います。特に、ひとりで『考える力』が身に着いたと思います。身に着いた『考える力』は皆さんの今からの人生で、『分かち合う』ことによって生かされ必ず益となるでしょう。

万事が益となるように

新約聖書・ローマの信徒への手紙8章28節に、「神を愛する者たち、つまりご計画に従って召された者たちは、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」と記されています。使徒パウロはキリスト教の歴史の中でなくてはならない人物であり、新約聖書の3分の1を書いたと言われています。ローマの信徒への手紙も使徒パウロがローマにいる信徒たちに書き送ったものです。

彼は主イエスとの出会いの後にキリ

スト者の迫害者から伝道者になった大逆転の人生に自分の使命である『神の愛』を伝えることに生涯を貫きました。しかし、彼はその働きのために数え切れない苦難に遭遇しました。それでも使徒パウロは『万事が益となる』ということを確信し、あらゆる苦難を乗り越えて自分の使命を成し遂げることが出来たのです。

新しい出発の前に

さて、新しい出発の前に立っている皆さんには、希望や期待もありますが、不安や恐れがもっと多くあるかも知れません。それは皆さんだけのことでなく、だれしものが新しい出発の前に経験することであります。それだけではなく、社会に出ると、皆さんの責任はだんだん大きくなるでしょう。特に、何かを判断するとき、見分けるとき、選択するときなどがあるでしょう。

そのときに皆さんは何を基準として、判断し、見分け、選択することになるのでしょうか。それぞれが何かの基準を持っていると思いますが、一つ伝えたいことがあります。ぜひ、酪農学園の建学の精神である『神を愛し、人を愛し、土を愛す』という「三愛主義」を思い出してください。酪農学園の創立者黒澤西蔵先生は酪農学園の建学の精神を「三愛主義」と定めたことに「古今東西永遠不滅の真理に照らし、断じて恥じるところがない」と、断言したのであります。酪農学園の学びは「三愛主義」が根底になっていることを思

い出してください。そして、皆さんを社会に送り出した酪農学園大学、教職員、先輩、後輩、友人たちが味方になっていることを思い出してください。

派遣と祝福の祈り

最後になりますが、派遣の言葉と聖書の祝福の言葉で皆さんの今からの歩む道を祝福いたします。

「平和のうちに、この世へと出ていきなさい。主なる神に仕え、隣人を愛し、主なる神を愛し、隣人に仕えなさい。」

「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜るように。」

(旧約聖書・民数記6章24～26節)



◀ 写真提供…総務課 浅井 太一

「証」



循環農学類3年 KGK代表 生田 健太

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。今回は私が聖書の言葉を信じるようになったきっかけをお話したいと思います。

聖書を知るまで

過去を振り返ると中学生の頃の経験が大きかったと思います。中学生の頃は私の経験の中で一番辛い時期でした。特に友人関係で悩んでいました。その頃、友人たちはタブレットを持ち始め、LINEで連絡を取りながらモンストをするというのがクラスのブームになりました。私はタブレットを持っていないだったので、その輪の中に入ることができず浮き始めました。

私の学校は田舎でしたので、同級生は15人で幼少の頃から仲が良かった友人の輪に入れなかったのがとても寂しかったです。友人たちと仲良くなるためにどうにかして目立とうとしました。というのは目立つことで状況が良くなると思ったからです。小学生の頃、授業中に意図せず珍回答をして笑いが起きクラスの人気者ようになった経験をしていたのです。それと同じように中学生の時も授業中にふざけてみたり、休み時間におだててみたりしまし

た。しかし、状況は良くならずむしろ嫌われていきました。

それに追い打ちをかけるように兄が進学のため家から出ることになったのです。2つ違いの兄で学校がかぶり習い事も一緒だったので、だれよりも一緒にいる時間が長い存在でした。そんな、近い存在の兄がいなくなってしまったこと、学校でうまくいっていなかったことが寂しくてしかたがありませんでした。この寂しさは心が通じ合う友人ができれば解決すると思いました。

その頃、「話したら残念だよ」と言われることが多かったので、高校進学を機にふざけることをやめ静かな人を意識して生活しました。しかし、会話が分からず深い関係の友人はできませんでした。それは、いままでドッジボールや追いかけっこといった遊びしかしてこなかったので会話の仕方を知らなかったからです。そこで、話し方を学ぶために本を読みました。『人を動かす』（デール・カーネギー）と『人は話し方が9割』（永松茂久）という本です。この本はどのように話すかよりも人の話を聞くことがポイントだと教えてくれました。これを知ってから気兼ねなく話すことができました。しかし、寂しさは感じていました。

聖書との出会い

それから、酪農学園大学へ入学し、コロナ禍を過ごす中、2021年6月17日に祖父が亡くなりました。祖父はクリスチャンでした。この祖父は部活終わりには毎回、車で迎えに来てくれました。また、毎晩家族のために祖母と祈っていました。家族思いで優しく尊敬する祖父でした。そんな祖父が大切にしていたものが聖書でした。私にとって聖書は内容が難しく分厚く読みたくない本の一つでした。しかし、祖父が生前使用していた聖書をふと見てみると、なんと、私の人生で助けになった言葉と似たような言葉にマーカーがしてありました。

それは「**だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。**」(ヤコブ書1章19節)という箇所と「**人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい**」(マタイ福音書7章12節)という箇所です。まさか、こんなことが聖書に書いてあるとは思いませんでした。他のマーカーの箇所も見てみると人生の指針になるような言葉がたくさんありました。そして聖書を土台として生きることは良いことだと思いました。

そのようなことがあってから、KGK(キリスト者学生会)に誘われ、参加し同世代の方々と聖書の内容について真剣に向き合い自分の罪深さを知り、十字架の贖いが本当に必要であることを知ることができました。このとき、ずっと感じていた疎外感や寂しさが満たされる感覚がありました。今思うと、

神様が愛してくださっていることを知ることができたのだと思います。そして、大学2年生の4月に私は野幌教会で洗礼を受け今に至っています。

最後に

私は他の人よりも偉くなりたいと思っています。中学生の頃は人気者を目指してふざけてみたり、静かになってみたりしました。しかし、聖書には次のように書かれています。「**あなたがたの中で偉くなりたいた者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたいたいは、すべての人の僕になりなさい。**」(マルコ福音書10章43-45節)。

私が考えていた偉くなる方法とは全く違い、相手のために仕えることが大切なのだと教えられました。福音書を学ぶと、イエス・キリストは困っている人を助け、孤独な人の友人となり、わたしたちの罪の身代わりとなってくださいました。自分の命も人のために用いる謙遜な神様の姿があります。自分の教えを口だけでなく、行動で示してくれる良い師匠であります。私はこの方を模範として生きたいです。ここまで読んでくださりありがとうございました。



【KGKのクリスマス会】

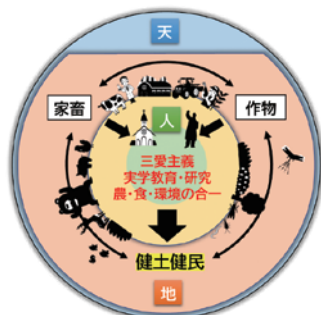
有機的につながろう



循環農学類 作物栄養学研究室 小八重善裕

いま、低環境負荷型の農業と食料安全保障が大きな問題となっています。政府も、「みどりの食料システム戦略」を立ち上げ、有機的で持続的な農業を目指しています。「有機」と聞くと、いかにも難しい、怪しげな感じがしますが、そもそも「有機」という言葉は、黒澤西蔵先生が「天地有機(天地機あり)」と言ったのが始まりです。「有機」はまさに本学の十八番。この教えを受け継いだ卒業生の皆さんは、世界のどこに行っても通用します。農業にとどまらず、いろいろな分野で活躍してほしいと思います。

これからどうして「有機」が重要なのでしょうか。「有機」の意味は、「化学的な肥料や農薬を使わない」「遺伝子組み換えではない」「低環境負荷」といった、JAS認証制度の枠にとどまるものではありません。大まかにいうと「有機的につながり…」というような、「ちゃんと手を取り合って連携しよう」という感じに近いものです。「機」にはいろいろな意味がありますが、なかでも大切なのは、「システム(機構)」あるいは「メカニズム(機作)」という意味です。農業や食産業を、つながって、はじめて動く、生態系のようなものとして捉えます。図に示したのは、古くからある本学の「循環農法図」を現代風にアレンジしたものです。天



【現代に合わせてアレンジした循環農法図】

地を繋いでいろいろなものが循環しています。家畜ふん尿、堆肥、肥料、食料、獣害、ドローン、お金、下水、食品残渣、農業や食産業にはいろいろなものが含まれていますが、これらを有機的につなげようということです。変なものとはつながりたくない気持ちは誰にでもあります。でも、いいこともわるいことも、この天地の中においては必ず循環し、私たちに戻ってきます。生態系になじまない、変なものを使ったり作ったりしてもよい時代は終わりました。貴重な資源を、安全に循環させ、適切に配分することを前提として、有機的に私たちが手を取り合って生活する時代に来ています。本学にはありがたいことに、その方法が定められています。

あ と が き

『出会い』89号(卒業式号)をお届けします。コロナのため礼拝でお会いする機会が少な

く、残念でした。戦争や地震で大変な世界ですが、平和を大切に歩んでください。(A.K.)

酪農学園大学キリスト教委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011 - 386 - 1111 (代表)



酪農学園大学は、2020年度(公対)日本高等教育評価機構による大学機関別認定評価において大学評価基準に適合していると認定されました。



(酪農学園大学公式サイト)